

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	森ゼミ	チーム名	みどりチーム
タイトル	コロナ禍における幸せと不安		
テーマ群	g)その他		
メンバー	鐘谷桃 北山叶絵 内藤敏樹 信川拓摩 松井大悟		
研究計画内容	<p>【目的】</p> <p>コロナウイルスの世界的流行により人々の生活は大きく変化した。感染拡大防止のため、度重なる緊急事態宣言の発令やまん延防止措置の実施など、外出・移動の自粛が求められ、人々の活動は制限された。このような状況で、今まで当たり前に行っていた旅行や外食を自由にできないことや、友人や知人と関わる機会が減少したことなどストレスを感じる要因が増加している。これらに加えて収入が減る、解雇されるといった経済面でも多くの人が打撃を受けた。これらのことから、コロナウイルス感染症により将来への不安を感じる人が増加したのではないかと考えられる。そこで、どのような人が将来への不安度が高いのか、もしくは低いのかを調査したいと考えた。また多くの人が不安を感じている一方で、現在の生活に満足している人はどのような人なのかを同様に調査したいと考えた。</p> <p>【内容】</p> <p>まず、コロナ禍における人々の将来への不安度・現在の生活の満足度について、独自のアンケートと外部の機関による調査結果をもとに仮説を立てる。次に、アンケート結果を用いてプロビット分析と重回帰分析を行い、仮説を検証する。アンケートには収入や性別、在宅時間などの様々な質問項目を入れ、それらを説明変数とし、将来への不安度・現在の生活の満足度との間にどのような相関があるのかを調査する。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>コロナ禍における将来への不安度・生活の満足度に関して、外部の調査を用いることによってマクロな視点から、また独自のアンケートを取り調査することによって身近な視点から知ることができ、それらを比較することで人々の現状をより深く理解することができる。また、分析結果を吟味することで現在抱えている不安を解消し、幸せを感じるための手助けになるのではないかと考える。</p>		